

平成24年度 第1回八尾市産業振興会議 議事録

日時 平成24年7月17日(火) 午後1時30分～3時30分

場所 八尾商工会議所会館 3階 大ホール1

出席者 <委員> 安達委員、川江委員、周防委員、滝谷委員、谷口委員、鶴坂委員、寺西委員、中浜委員、林委員、藤原委員、文能委員、山崎委員、山田委員、横山委員
計14名

<事務局> 村上部長、尾谷理事、馬場次長、築地参事、濱崎参事、徳光課長補佐、主井係長、阪口係長、古賀係長、堀江
計10名

<オブザーバー> 八尾商工会議所・川野課長 計1名

総計25名

—事務局による司会で次第に沿って進行—

1. 開 会

・事務局より、産業振興会議委員17名のうち、出席者14名、欠席者3名であり、八尾市産業振興会議規則第3条に規定する過半数の委員の出席により、会議が成立している旨の報告。

2. 委嘱状交付

3. 経済環境部長あいさつ

4. 委員紹介及び事務局紹介

5. 座長選任、副座長指名

・八尾市産業振興会議規則第2条第1項に基づき、座長に鶴坂委員を選任するとともに、座長の鶴坂委員より、文能委員を副座長に指名。

6. 議 事

—座長による議事進行—

(1) 産業振興会議の仕組みと本年度の進め方について

事務局より、資料1、資料2に沿って平成24年度以降の市の産業振興、及び産業振興会議の進め方について説明。

【質疑応答・意見交換】

委 員： 事務局から説明のあったとおり、今年度から2年間かけて産業集積の維持・発展という大きなテーマで検討を行うこととなる。その中で具体的に3つ程度の小さなテーマに絞った上で検討するという進め方でよいのか。

委 員： 論点を3つ程度に絞るとのことだが、論点ごとに複数の部会を設けるのではなく、検討部会は

1つという理解でよいか。

委員： おっしゃるとおり、部会は1つで進めることになる。

(2) 産業集積検討部会について

- ・事務局より、資料3、資料4に沿って、産業集積検討部会の進め方、スケジュールについて説明。
- ・「八尾市産業振興会議規則」第5条に基づき、座長の鶴坂委員より、資料7の委員名簿の「部会」欄に○印のある委員を部会委員に指名。また部会長に文能委員を指名

【質疑応答・意見交換】

委員： 部会を開催する時間帯は何時頃になるか。

事務局： 1回目は昨年度と同様19時頃からの開催を考えているが、2回目以降については、部会委員の皆さんのご都合もお聞きし考えたいと思う。

委員： 論点はどの時期に絞りこむのか。1回目の部会には予めそれぞれでイメージした上で参加した方が良いのか。

事務局： 論点は1回目の部会で検討したいと考えている。なお、1回目の部会では事前に資料配布をする予定なので、予め資料に目を通していただき、イメージをお持ちいただいた上で参加いただけるとありがたい。

委員： 商業や工業といった業種をまたいで検討することになる。先程説明のあった資料に提示されているテーマ案に必ずしも縛られるわけではないので、いろいろな角度から考えておいていただければ。テーマの絞り込み方については、例えば委員の皆さんからいくつかキーワードを挙げていただき、それを事務局でまとめて整理し、一つ一つのテーマを定めるという形も考えられる。部会の検討につながるようなキーワードについて、日々の取り組みの中で感じることなどあれば、この場でも出していただければと思うが何かあるか。

委員： 中小企業基本条例の前文にもあるが、八尾市の産業に直接関わる人だけでなく、一般の市民の参加が重要。事業者間連携、新規創業促進だけでなく、市民との連携という考えもどこかに論点として入れることができれば。八尾には優れたものづくりの企業が多く、図面さえあれば色々なものが作れるが、一方で自ら図面を書くのは苦手な企業が多い。商品づくりの発想の柔軟さは、売る立場から改良点を発想できる事業者等の方が優れている。商業・サービス業者と工業者との意見交換や、主婦など一般市民の目線での発想から新しい産業が生まれうる。そういった検討ができれば。

また先日、大阪経済法科大学と意見交換を行ったが、チャレンジショップの実施をしたい等の意見があった。学生の起業につながる取り組み等の応援をしたいと考えている。学生の意見も取り入れつつ、市民に加えて学生も巻き込んで新しい産業づくりができれば。

委員： 商売をしている中での実体験として、うまくいくときのポイントは人が関わっているとき。自らが携わっていることに対する思いや気持ち、そして人との共感が重要。今回のテーマは、過去2年のテーマと比べて「人」というところがキーワードになりうる。商工業者以外の一般市民の方がどう関わるのかが重要だと感じる。

宮崎県庁でチキン南蛮のPRを行っている友人から、お店の方と日常で関わりを持っているからこそイベント等にも参加してもらうことができ、取り組みも広がっているという話があった。

八尾市でもまちづくりに関するいろんな取り組みが行われているが、新たな価値を生んでいくということになると日々日常の関わりが重要。27万人の市民の中には関心がない方も多いが、大学

や商店などから取り組みの中心となるような方が出てくるための仕組みが重要である。そういった方のやる気を起こさせるきっかけになるような提案ができればと思う。会議で2年後に提言するだけでなく、今できることは同時平行で実践しながら2年間の任期を務められれば。

委員： 国の中小企業政策は、以前は大企業と中小企業の格差是正が中心だったが、10年ぐらい前に理念を転換し、伸びる中小企業を支援する政策を進めるようになった。

八尾と聞いてイメージするのはものづくりであり、強みをより強くするという点ではものづくりをより強化していくべきだと思う。資本や労働の大幅な伸びが期待できない中、国や地域が成長するためには生産性の向上率や技術の進歩率を大幅に上げることが重要であり、これを実現するにはものづくり分野でイノベーションがどんどん起こる仕掛け・仕組みを作っていくことが重要。

観光振興や商店街振興に関連して様々な取り組みが行われているが、これらを行うこと自体が目的化してしまっていることが多い。これらはあくまで手段であり、本来の目的は街や地域の活性化にあるはず。まち全体をどのようにしたいのか明確にした上で、その実現のために手段として観光や商業をどうするのかを考える必要がある。

また、広域圏での取り組みが重要である。結びつきが強い広域的な地域での取り組みを強化することによって地域の生産活動や地域経済に好影響を与えている事例が東北や九州で見られる。八尾市も大阪市の生野区や平野区、東大阪市などと連携した取り組みを行っていくことで地域全体がよくなっていくのではないかな。

委員： 八尾商業まつりの実施や河内音頭記念館のオープンなど、市内で行われている取り組みについて知ることができると消費者はワクワクし、また郷土愛を感じ八尾に生まれてよかったなと思える。市民は八尾が賑わいのあるまちになって欲しいと考えており、そのためには色々な情報を伝えて欲しい。また、夏休みに子ども消費者教育を開催し、八尾市の農業、商業、工業を学ぶ。学校では学べない八尾のいろいろなことを子ども達に学んでもらいたい。

委員： 大阪経済法科大学の学生に商店街を活性化するにはどうしたらいいのか？と質問を受けたときに、「皆が八尾を好きになることだ」と答えた。皆が八尾を好きになれば、地産、地買、地消につながり、それが八尾の商業活性化につながる。

また、商店街の中で営業していても団体に加盟しない店がある。この問題をどうするかという点も論点の一つとして考えられる

委員： 現在は製造業にとって非常に厳しい時代である。貸し工場も空きが多く、大企業もグローバル化の中で失敗しており、また、中小企業金融円滑化法の期限到来など金融面でも困難な状況にある。先を見据えた議論も重要だが目先の課題についての議論も重要。雇用を維持するだけで大変な時期に新しいものをつくるといっても個々の企業だけでは限界がある。

委員： 大型商業施設の立場からでは、商業の地域間競争が激化しているが、一方で半径5km以内のエリアからの来客が8割あるというデータがある。商業は同じパイの奪いあいであり、人口が増えないと発展は難しい。そのためには八尾が住みよいまち、住みたいまちとして住環境を整えるまちづくりが必要。また、若い人は市外に出て買い物をすることが多いが、食品等の日常的なものは八尾で買ってもらえるよう、若い人たちに魅力を感じてもらえるための仕掛けが必要。

委員： 定住人口を増やすのも一つだが、交流人口を増やすという視点も重要。交流人口を増やす方が取り組みがしやすい。観光地や農作物などの地域資源をブランド化して人を惹き付け、お金を地域で消費してもらう仕組みづくりなど、ハード整備ではないソフト面での取り組みでも可能である。

委員： 2年前とは環境が明らかに変わった。震災と原発問題、そしてツイッター等のインターネットを

駆使して、大手メディアとは関係なしに何十万人が動く。原発問題と関連して太陽光発電などの環境産業が拡大していく時代もくるのでは。

委員： ツイッターやフェイスブックは人を動かす力がある。店舗への来客だけでは厳しい時期があったが、ネット販売を始めてからは様々なつながりができはじめた。目先のことへの対応も大事だが、何年後かにこうなりたい！という目標設定は大事。年配の方や若い方でも八尾の商店街のシャッター通りをなんとかしたいという思いをもっている方はいる。ならまちではチャレンジショップでやる気のある若い人を取り入れ、商店街を活性化に成功している。若い人たちは発信力が高く、つながりを持つことができれば。

委員： 委員同士ももっとつながりを持つことができればと思う。

委員： 情報は伝えようと一生懸命押せば押すほど伝わるというものでもない。伝えたい相手にふっと気にしてもらえるように伝えることが重要。多くの情報がたくさんある中、伝えたい相手の気持ちにひっかかるというような情報発信が重要。

委員： 高安の山手に住んでいるが、建売住宅が増加し、世帯数が増える一方で買物をする店が増えない。特に歩いていける範囲内に店がない。歩いて買物ができるまちが必要。皆が車で買物にいき、車が停められるところでしか買物をしないという状況はいかがなものか。

委員： 商業者は売上げが厳しい中、会費が払えない等で団体に参加されない方も多く、商店街等の形がどんどんなくなっていっている。市場でも市場連合会は脱退するが市場としては継続しているところもある。

活性化の取り組みをしているが、目に見えて賑わいにつながっていっているところが見えない。消費者の多くはどうしても大型店の価格の安い広告に惹かれてしまう。チラシを入れると価格比較されてしまうので、視点を変えて、いっそチラシを入れないことでコストを削減し、その分お店に買い物に来られた方へ還元するということも考えられる。駐輪場でインパクトのあるイベントをするなども一つ。現状を打破するには今までとは視点を変えた取り組みが必要。

委員： 歯ブラシを製造しているが、消費財を製造する企業は小売店の影響を大きく受ける。大手小売店は大手の商品を扱い、価格を下げ販売する。

また、地域の町会長をしているが、町会長が集まる自治振興会では非常に熱心な方がいる。ただ、多くの方は町会長をやりたいがらず決めるのも大変。町会でのつながりが少なくなると、地域内のつながりが弱まり、商店街で買物減少にもつながる。高齢になると電球を一つ変えるのも大変になるが、大手家電量販店では電球を換えてはくれない。そう考えると近隣の電器店が大事だが、若い方は元気なうちはそうは考えない。八尾市を良くするには、今の状態では立場等によって関係が希薄なところがあり、その点を含めどうしていくのか考える必要がある。

委員： 皆さん様々のご意見をお持ちで論点の絞込みが大変なように感じるが、産業集積が集積として機能するにはその魅力を高めることが重要。集積に魅力があることで、若い人の流入につながり、企業にも八尾で事業を行うことがビジネスチャンスにつながると考えてもらえる。八尾の魅力をいかに作り発信していくか。流通経路を工夫し、八尾の商品の魅力を消費者に知ってもらい、八尾で作ったものを八尾で買ってもらうという取り組みもできるかも知れない。新しい暮らし方や生き方に関する先駆けた提案ができれば。

委員： 地域とのつながりや人口など、まちづくり全体に関わるご意見をいただいたが、これらを進めるには産業政策課単独ではなく他部署との連携が必要だと改めて感じた。

(3) その他報告事項について

- ・資料5-1、5-2、6について事務局より説明
- ・昨年度制作した産業教育映像DVD「びっくりものづくり～八尾の工場大冒険～」の上映

【質疑応答・意見交換】

委員： 歯ブラシに関連して何かPRは行われているのか。

委員： 毎月8日は歯ブラシの交換日として呼びかけを行っている。また、歯の衛生週間の6月3日に近鉄八尾駅前では歯ブラシ感謝祭を行っている。現在は若手に新たなPR手法を検討させているところ。自社では、小学3年生が地場産業としての歯ブラシを学ぶタイミングと合わせて、近隣の小学校2校の工場見学の受け入れを行っている。

委員： 「府内でも八尾の小学生は虫歯が少ない」などのデータがもしあれば八尾の歯ブラシのPRにつながるかも知れない。

委員： 子どもの時に地域の産業について学ぶことは重要。このDVDは貸し出しなどを行っているのか。

事務局： 今年度はまず学校現場で副教材として使ってもらうことを考えている。子ども達が先に見てしまうと授業での利用の際に支障があるので、今のところ貸し出しやHP上での配信等は考えていない。今後どのように発信するかは現場で使ったのちに検討したい。

7. 産業政策課長あいさつ

8. 閉会

以上